目次

第一部 一般情勢報告

一 一般情勢概観 …… 一
二 世界資本主義の情勢 …… 一
三 世界無産階級運動の情勢 …… 二
四 金融恐慌と我国資本主義の情勢 …… 三
五 我国無産階級運動最近の情勢 …… 四
結論 …… 五

第二部 組合同盟活動報告

組合同盟活動概観 …… 1
中央委員会記録 …… 2
政治部報告 …… 9
法律部報告 …… 11
調査部報告 …… 11
教育出版部報告 …… 12
争議部報告 …… 13
組織宣伝部報告 …… 15
青年部報告 …… 23
婦人部報告 …… 23
国際部報告 …… 25
その他 …… 28

第一部 一般情勢報告

一般情勢概観

現下の世界並に我国を通じて観たる一般情勢の特質は、産業の合理化と資本の安定の傾向の増大である。世界に反動勢力は急速に抬頭し来つた。少数の戦闘的プロレタリアの決死的斗争を除いてはプロレタリア運動は一般に一時的沈滞の傾向を表はした。

大体に於て欧州大戦後欧洲の資本主義諸国を襲ふたこの傾向は、次第に全世界に波及し、昨年来の金融恐慌を通じて我国資本主義の上に最も明瞭に此の特質を現はしつゝある。

世界資本主義の情勢

一九二七年を通じて一貫する資本主義の傾向は所謂生産の合理化である。この合理化の傾向は、先づ労働階級に対する搾取の増大化と、賃銀の切下げと失業群の大量的生産に始まり、資本の集中企業の結合に至るまで、全世界に亘つて資本家階級の手によつて遂行された。かくて資本家階級は労働階級の犠牲によつて利潤低下を防止すると同時に、市場の獲得のために全努力を傾注しつゝある。殖民地に対する搾取のより増大しつゝあることはこの傾向である。特に昨年度を通じて著しき特質は、欧洲大戦によつて最も多く打撃を蒙つた欧洲資本主義諸國、就中、独逸は米國の金融資本の殖民地と化して去つたこと。英國資本主義が世界資本主義の王座から蹴落されたこと。日本の金融資本主義が金融恐慌の混乱を通じて急速に上昇しつゝあること、これらの諸勢力は世界資本主義の主流として今や殖民地諸国に於て衝突し種々の矛盾